INTERVIEW

公立置賜総合病院 総合診療科 診療部長
髙橋 潤 先生

患者さん自体をみる楽しさを知り，外科医から総合診療医へ

聞き手：山田隆司　地域医療研究所長

外科医～家庭医～内科医として働く

山田隆司（聞き手）　今回は，公立置賜総合病院の髙橋潤先生のお話を伺います．先生には山形県の支部長を長く務めていただいてますので，それも含めてお聞きしたいと思います．まずは卒業してから現在までの経緯を少しお話しいただけますか．

髙橋 潤　卒業したのは1991年で，残念ながら国家試験に落ちまして，１年間自治医科大学の地域医療学教室でお世話になりました．多くの先生方，職員の皆様に支えていただきましたが，地域医療学教室の助教授であった飯島克巳先生と，現在医学教育センター長に就任された岡崎仁昭先生の指導は忘れられません．岡崎先生は柔道部の大先輩で隣の宮城県の出身でもあり，非常に熱く指導していただきました．私が今こうしてあるのはお二人のお陰です．私は14期ですが，私の期は４人か５人が国家試験に落ちて自治医大の中でワースト１，２なはずで，大学の先生方には顔向けできませんが，今は頑張って医者をやっているのでお許しいただきたいと思います（笑）．

私は一般消化器外科を目指していたので，卒業後は，置賜総合病院の前院長の渋間久先生がいらした県立中央病院の一般･消化器外科で，初期研修２年と後期研修１年の３年間，外科の研修をしました．それから山形県と秋田県の県境にある金山町立病院に一人外科で赴任し，その後，この置賜地区にある白鷹町立病院に２人目

の医師として赴任しました．それからまた後期研修で県立中央病院に戻って１年研修してから，７年目に飯豊町中央診療所に赴任になりました．ところが2002年にその診療所から「常勤の先生がみつかったので自治医大卒業生の医師はいらない」と言われてしまったのです．

山田　それはひどい話ですね．飯豊町中央診療所には何年いたのですか．

髙橋　義務内２年と義務が明けてから２年いましたので４年間です．そこは一人診療所だったので，内科や外科的処置のほか，在宅医療，学校医などの仕事があり，全てに関わることの面白さ，やりがいを感じました．自分が実際にそういうふうに働いていたので，総合診療という形で教育するようなシステムを作った方がいいのではないかと当時から考えるようになりました．

山田　その診療所に行くまでは外科医のトレーニングをしていたわけで，診療所に行くことに抵抗はありませんでしたか．

髙橋　抵抗はありませんでしたね．外科をやっていたときにも，定型手術などをしていると，それだけなら自分でなくてもいいのではないかと思っていました．それよりも合併症のある患者さんの管理をしながら手術をして，うまくいくようにするにはどうしたら良いかというようなことを考えていました．手術自体よりもその後のことや，人がやらないところをやりたいという思いは，もともとあったと思います．

山田　飯豊町中央診療所の後は，どこへ行ったのですか？

髙橋　本当は朝日町立病院へ赴任するつもりでしたが，最上町立最上病院で医師がいなくなって困っているということで，そこへ行くことになりました．町営のウェルネスプラザという保健･医療･福祉･介護が一体となった温泉付きの，言ってみれば地域包括ケアの先駆けの施設でしたね．

山田　何床ぐらいの病院だったのですか．

髙橋　60床くらいですね．そこの３人目の内科医として行きました．

山田　診療所を終わってから内科医になってしまったのですか⁉ 外科医だから外科へ行かせてくださいと言えば，そういう病院を探してもらえたのではないですか？

髙橋　多分探してもなかったと思うのと，飯豊町中央診療所で総合医の仕事が楽しかったので，それでもいいと思うところもありましたね．

　そこは１年だけで，それから朝日町立病院へ行きました．朝日町立病院は約50床で，医師は内科２人，整形外科１人，外科１人で，私は５人目，内科医として赴任しました．

山田　でも，そこは外科手術もやっていたわけだから，先生が外科医としての研鑽を積みたければそれもできたのではないですか？

髙橋　実際に外科手術の前立ちで入ったり麻酔の手伝いをしたり，整形の先生と一緒に手術をしたりできたので楽しく過ごしました．

山田　５人で50床ぐらいの病院ということは，比較的何にでも対応していたという感じですね．そこが長かったのですよね．

髙橋　長かったですね．13年いました．